荒木先生

昭和十一年十二月五日

理財局調査情報第四號

理財局國庫課調査掛

荒木光太郎文書 5

目次

最近ニ於ル金融問題諸説　其ノ一……一
佛國獨立償還金庫ノ業績……一二
伊太利平價切下法要旨……一七
米國一九三六年上半期國際收支……一九
金融事情……二一

資料

主要國財政經濟日誌……二五
經濟統計……三〇
主要國金融市場……三〇
中央銀行概況‖中央銀行金利
金融市場……三八
日本銀行概況‖東京市中金利‖東京手形交換高

荒木光太郎文書 5

外國爲替市場……四四
正金建値―英米爲替相場―金銀相場
證券市場……四九
東株相場
商品市場……五〇

紹介

稅制改革ノ金融界ニ及ボス影響……五三
稅整案ノ金融界ヘノ影響―新稅制ノ金融界ヘノ影響
公債市價下落ノ意味……五六
準戰時体制ノ内在的矛盾―短資引締ノ實相及前途
民間資金需要增加傾向……六〇
産業資金ノ需要急增トソノ背景

荒木光太郎文書 5

最近ニ於ル金問題諸説　其ノ一

最近到達シタ海外諸雑誌ノ中デ金ノ需要供給及其ノ價値ニ關スル論文ガ二三見受ケラレタ。

其ノ一ハ本年七月附 Skandinavis Ka Kreditaktie Bolaget, Quarterly Report 誌上公ニサレタ G. Cussel教授ノ「金價値ノ將來」デアリ、

其ノ二ハ同シク九月附ノ The economic journal 誌ニ載セラレタ F. M. Keyens氏ノ「金ノ供給」ト題スル論文デアル。筆者ガ共ニ現代貨幣論ヲ代表スベキ碩學タルコトハ今更紹介ヲ要シナイ、以下之ガ要旨ヲ省譯スルコトニシヨウ

一、金価値ノ將來

クスターヴ、カツセル

輓近金ノ產出ハ巨額ニ上リタメニ金ノ供給過剩時代ガ到來スルニ非サルカトノ懸念ガ流布シテヰルヤウデアル。ダガソノ觀察ハ必シモ正鵠ヲ得テヰルト言ヘヌ。

此ノ問題ヲ取扱フニ際シテハ先ヅ「生常」ナル金生產ノ意義ヲ規定ナケレバ過剩ナリヤ否ヲ判斷シ得ヌ筈デアル。若シ世界ニ於ル經濟歩ノ率ヲ年三%ト假定スルナラ之ニ相當シタ金ノ增加ガ「正常」ナ加ト言ヘル譯デアリ、而テ余ノ審調査（Theory of social economy.）ニヨルト一八五〇年乃至一九一〇年ニ於テハ物價水準維ノタメ平均三%ノ增加ガ實際上必要ダツタノデアル。若シ當該年首於ル金ノ量ヲ基礎トシテ其ノ年內ニ於ル產出額ヲ除シ之ヲ增加率トフナラバ一九二〇年代ニ於ル金增加率ハ僅ニ二%ヲ超ユルニ止リ、

ノ舊調査當時ノ三分ノ二ニ過ギナカツタノデアルガ近時金價値ノ上昇ニ伴ヒ年々ソノ增加率ハ急激ニ向上シ今デハ三%ノ正常率ニ復セントスル情勢ヲ示シテ居ル。一九三〇年來金ノ供給量ハ獨逸馬貨デ計算スルト次表ノ示ス如クデアル（此ノ表中余ハ舊調査ノ例ニヨリ金ノ喪失量トシテ千分ノ二ヲ控除スル）。

	年產金額 百萬磅	年末ニ於ル金現在額 百萬磅	年百比增加率 %
一九三〇年	一、八〇二	八三、二〇六	二、二一
一九三一年	一、九二〇	八四、九六〇	二、三一
一九三二年	二、一〇四	八六、八九四	二、四八
一九三三年	二、一八二	八八、九〇二	二、五一
一九三四年	二、三九七	九一、一二一	二、七〇
一九三五年	二、六四七	九三、五八六	二、九〇

右ノ如ク一九三五年ニ於テハ未ダ正常率三%ニ達シテ居ナイガ一九三

六年ノ「正常」生産額ハ二、八一〇、〇〇〇、〇〇〇麻デアルガ實際ハ之ヲ突破シテソノ増加率モ上昇スルモノト思ハレル。併シ夫カト言ツテカカル過剰生産ニヨリ警戒ヲ要スルト言フ徴候ハ今ノ處見受ケラレナイ。若シ生産量ガ四%ニノボリ「正常」増加率ヲ一%方上廻レバ一般金物價水準モ上昇スルデアラウガ夫トモ格別警戒ヲ要スル程ノモノデハナイ。

以上述ベタ處ニヨリ斯カル問題ヲ唯莫然ト「甚シキ過剰」等々ノ言葉ヲ用ヒテ抽象的ニ取扱フ丈デハ滿足セズ更ニ進ンデ之ヲ數量的ニ取扱フコトガ必シモ絶對ニ必要ダト言ヘヌ迄モ如何ニ有用デアルカガ判然トスルデアラウ。現在ニ於ル金ノ生産ハ世界貨幣ノ將來ニ何等ノ不安ヲ與ヘルモノデハナイ。然ルニ金ノ過剰生産ガ誇張セラレル結果脅威的ナ過剰ヲ防止スルタメ國際的ニ其ノ生産ヲ抑止スベキデアルト言フ見解サヘ一部デハ行ハレテ居ルノデアル。カヽル國際的ナ統制ガ到底行ヒ得ザルコトハ現在ノ世界情勢ヲ見テ容易ニ理解シウル處デアル

ケレトモ此ノ種ノ生産制限ハ又吾人ノ舊調査ニ見ル如ク全然不必要ナノデアル。蓋シ萬一生産ガ著シク過剰ダト言フナラバ過剰部分丈金準備ニ關スル規定ヲ嚴重ニスレバ良イカラデアル。

以上ノ結論ハ世界經濟發展ハ年三%デアルトイフ假定ニ基イテキルノデアルガ、實際上經濟發展ノ速度ガ之レヨリモ緩漫デアルト言フコトハ有リ得ル所デ此處數年ノ如ク各國ガ自給經濟ノ確立ヲ目指シ通商ヲ阻害スレバ一般的發展ハ緩漫タルヲ免レヌシ、各國ノ對内政策ニヨリ企業ヲ麻痺セシメ資本ノ稱成ヲ阻グルニ於テハ其ノ發展ヲ全然停止セシムルデアラウ。斯ク一般經濟發展ノ停止セル場合ヲ考ヘレバ金ノ生産ハ現實ニ消費セラレル量ヲ補塡スルニ必要ナ額以外ニハ不必要デアル。斯ヽル狀況ノ下ニテハ現實ニ生産サレタ金ノ増加ニ基キ一年ニ三%乃至四%、或ハ更ニ著シキ物價騰貴ヲ見ルデアラウ。ダガ斯クシテ物價ガ騰貴スレバ經濟活動ヲ促進シ新シキ發展ヲ示シ其ノタメニ金ノ生産ヲ必要トスルコトニナル。恐ラク此ノ場合ニハ甚シキ好況ト之ニ續ク

恐慌トヲ迎ヘルデアラウガ大カト言ッテ吾人ハ經濟活動ノ發展ヲ停止サセルタメニ金ノ生産ヲ抑制スルガ如キ愼重サハ之ヲ採リ得ナイノデアル。

金價値ノ將來ヲトスルニ當テハ其ノ生産ノミデナク其ノ需要側ヲモ考察セネバナラナイ。先ヅ第一ニハ最近數ケ年間商品ニ比シ金ノ價値ガ著シク向上スルニ至ッタ其ノ原因ヲ探求シヨウ。倫敦ノ金塊相場ハ、一九三〇年カラ一九三六年四月迄ノ間ニ八四。九六志ヨリ一四〇志ニ騰貴シ之ニ反シ一般物價水準ハ一〇〇ヨリ九二ニ低落ヲ見タノデアル。之ニヨレバ商品ニ對スル金價値ハ約八〇%ノ上昇ヲ見、之ハ取リモナホサズ金價値ノ安定性ガ著シク缺乏シタト言フコトヲ示スモノデアル。一九三六年五月十一日附國際決濟銀行報告ハ現在ノ金物價指數ハ一八〇〇年乃至一九三〇年間ニ於ル最低位ヲ遙ニ割ッテ居ルト記シテ居リ而テ此ノ際來物價水準ノ上昇即チ金價値ノ下落ガ起リ得ルモノト解シテキル。

金ノ生産ガ著増シタニ拘ハラズ金ノ價値ガカクモ騰貴シタ原因ハ金ノ需要ノ増大ニ外ナラナイ。金需要ノ増大シタノハ流動性ヲ欲スルノ餘リ各種資産ヲ金又ハ金貨幣ニ換ヘタ結果デアル。中央銀行ハ金通貨ヲ管理スル局ニ當ルタメ金準備ノ維持ヲ強制セラレ一九二〇年乃至三五年ノ十五年間ニ諸中央銀行ノ準備ハ七、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇舊弗ヨリ一三、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇舊弗ニ卽チ六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇舊弗（一〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇新弗）ニ餘ル増加ヲ示シタノデアリ、此ノ増加率ガ正常増加率ヲ遙ニ凌駕シテ居ルコトハ勿論デアル。

又コノ外ニ民間ニ於ル退藏金及二三ノ國ニ於ル爲替平衡資金ノ保有金ヲモ考慮セネバナラナイ。前記國際決濟銀行ノ報告ハ一九三一年九月以來是等退藏セラレタル金額ヲ五、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇瑞西法卽チ一、七〇〇、〇〇〇、〇〇〇新弗ト計算シタガ是ヲ上述セシ中央銀行ノ保有スル準備ノ増加ニ比スレバ六分ノ一ニ過ギズ、金需要ノ中デハ小部分ヲ占メルニ止ル。又之ト反對ニ印度ニ於ル退藏金ノ撒布及輸出モ問題デア

ルガ、一九三一年乃至一九三五年ノ間ニ印度ヨリ輸出セレタ金ノ量ハ三、三四五、〇〇〇、〇〇〇瑞西法ニ上リ、之ヲ控除スレバ純退藏量ハ一、八五五、〇〇〇、〇〇〇瑞西法卽チ六〇〇、〇〇〇、〇〇〇新弗、近年不況時ニ於テ見受ケラレタ巨額ノ金需要ニ比較スレバ更ニ一層ソノ重要性ヲ失フ譯デアル。斯クノ如ク、需要增加ノ主因ハ中央銀行ニ於ル金準備ノ增大ニ在ルコト明デアリ、西歐ニ於ル民間退藏金ガ解放サレタトシテモ貨幣的供給ガ補ハレルモノトモ言ヘナイノデアル。蓋シ此ノ解放額ハ再ビ印度ニ吸收サレヌトモ限ラズ又吸收サレナイニシタ處デ此ノ退藏金解放額ハ中央銀行ノ準備ヲ幾ラモ增加スルモノデモナイカラデアル。

不況ノタメ工業用金ガ著シク減少シ乃至ハ金價値ノ上昇ノタメ既製ノ金商品ノ溶解ガ行ハレルナラバ兎モ角、サモナケレバ貨幣的目的ニ充テラルヽ需要ノ斯クノ如ク著シキ增加ハ金價値ヲ上昇セシメズニ措カナイノデアル。

過去ノ經驗ニ徹シテ將來數年間ニ於ル金價値ノ趨勢ヲ考ヘルト幾分トモ低落ヲ辿ルニ非ルカト思ハレル。勿論此ノ點ニ付テ適確ナ豫想ヲナスコトハ不可能デアルケレドモ、國家財政ノ困窮ハ再軍備ノ進行ニヨリ益々激化シソノタメ新規ノ支拂手段ノ創造ヲ招來ナルコトトナレバ物價ハ上騰スベク、且低金利並ニ信用膨脹ヲ目的トスル通貨政策モ亦之ニ拍車ヲカケルモノト言ヘヤウ。

併シ指導的地位ニアル國家ガ金價値ヲ物價水準ニ應ジテ引上ゲルコトモ起リ得ルコトデ、周知ノ如ク米國デハ金價値引上ノ餘地ヲナホ十八%殘シテ居ル有樣デアリ、若シ米國ガ之ヲ完全ニ利用スルニ至レバ英國モ亦之ニ相應シテ金磅價格ガ物價ノ騰貴シタ丈丁度騰貴シタノデアツタナラ商品ニ對スル關係デハ金價値ハ變化セズ、從テ金價値漸落ノ見込ハ立タナクナル譯デアル。

一般ノ人々ニハ貨幣價値ノ單位トシテ金ヲ用フルコトヲ廢止スレバ金價値ガ急激ニ低落スルト思ツテ居ルガ之ハ必シモ正シクナイ。英國ヤ

瑞典ノ如ク金本位ヲ離脱シタ國デモ從來通リ金ノ吸收ニ努メテ居リルヤウナ有様デ世界諸國ガ金ヲ特別ニ流動性アル安全ナ資産デアルト考ヘル限リ金ヲ保持スルデアラウ。

乍併以上ニ見タ如ク金價値低下ノ趨勢ガ之ト逆行スル要因ニヨリ阻止セラレルデアラウト言フコトモ亦相當根據アル考方デ、一般ニ債務者ハ債務ヲ金デ支拂フ權利ヲ有シコノ權利ハ容易ニ奪ハレルコトハナク、萬一之ヲ奪ハントセバ寧ロ支拂ハ拒レヤウ。シカルニ國際決濟ハ一切金ニヨル外ナク國内ニ於テモ金支拂ヲ禁ズル如キ立法ノ行ハレルコトハ考ヘラレズ而モ金拂ノ可能ナル既存債務ガ巨額ニ上ル現情ニ在テハ債務者ハ元利支拂ノ必要上金ヲ需要シ其ノ結果金價値ノ低落ハ簡單ニハ行ハレヌノデアル。

又吾人ハ世界經濟ガ舊時ノ如ク繁榮シ、舊時ノ如キ發展ニ復スナラバ工業ニ用フル金ノ需要モ舊ニ復スノデハナイカト思フノデアル。此ノ工業用ノ需要ハ又常ニ金價値ヲ維持スル重大ナ要素デアル。

斯クノ如ク考察シ來ツタ後吾人ハ次ノ如ク結論シ得ルノデアル。即チ、金價値ハ今後モ著シキ動搖シヨウトモ金ハ常ニ價値高キ商品タリ得ヨウト。

佛國獨立償還金庫ノ業績。

國家財政ニ於ケル國債ノ地位ハ近來經濟恐慌ノ深化トソレニ基ク國際情勢ノ惡化ニ依リ一方ニ於テハ歳入ノ激減ト他方ニ於テハ諸般ノ歳出激增ノ故ニ益々重キヲ加フルニ到ツタノデアルガ、所謂赤字公債ニ依ル財政ノ均衡ハ同時ニ國債費ノ負擔增大トシテ更ニ財政ノ不均衡ヲ擴大スルモノデアリ、從ツテ國債ノ償還並利拂ハ各國政府ノ最モ腐心スル對策ノ一ツデアル

既ニ佛國西ニ於テハ大戰ニ基ク莫大ナ公債ノ處分ノ爲メ一方ニハ平價切下ニ依ル公債ノ實質的減額ヲ計リ又他方特別ナ金庫ヲ設置シ該金庫ニ對シ一定財源ヲ賦與スルト共ニ公債ノ借替、償還其ノ他ノ業務ヲ行ハシメ以テソノ國家財政ニ對スル重壓ヲ回避セントシタノデアル。右ノ金庫ハ獨立償還金庫ニ神セラレ最近ニ於テハ年々約三十億法以上ニ上ル公債利拂償還ヲ國家財政ノ爲メニ負擔シテ居ルノデアル。

以下該金庫ノ一九三五年度ニ於ケル償還業績ヲ見ヤウ。一九三五年度ニ

荒木光太郎文書 5

於ケル金庫ノ償還業務ハ前二年度ニ比シ著ルシイ活況ヲ呈シタノデアツテ、先ヅ國家財政ノ負擔ヲ輕減シ、國家ノ財政建直シ策ニ協力スル爲メ同年七月二十六日付ノ勅定ニ依リ預金、供託金庫ガ各種社會福利增進ノ爲メニ法律ニ從ツテ爲シタ政府貸上金ニ對シ政府ガ預金供託金庫ニ引渡シタ國防證券及ビ國庫債券ノ償還ヲ引受ケルト共ニ他方金庫ハ一九三五年九月十九日付勅定ニ基キ一九二八年發行四分利付一九二九年三二年三三年發行四分五厘付一九三四年三五年五分利付郵便電信電話公債ノ償還ニ同意シタノデアル。此ノ新ナル負擔ハ一九三五年十月一日以降同金庫ニ賦與サレタ「マツナ」專賣收入ニ對スル代償デアル又佛蘭西銀行ニ引渡サレタ金庫證券償還ノ爲メ金庫收入ヨリ控除セル額ハ八千八百萬法ニ上リ、右ノ償還ノ爲メ特ニ充當セラレタ收入ヲ加算スレバ右金庫證券ノ同年度ニ於ケル減少ハ一億二百萬法ニ上ツタノデアル。

更ニ取引所ニ於ケル買戻償還ハ一九三四年ノ四億六千九百萬法、一九

三三年ノ二億六千萬法ニ對シ三五年度ニ於テハ七億七千一百萬法ニ上リ又中期國庫債務ノ償還ハ約四百萬法、契約上ノ償還ハ二十七億六千五百萬法ニ上リ、猶年金公債ト交換セラレル爲メ小額所有者ニ依ツテ引渡サレタ永遠公債ハ百萬法ヲ越シタノデアル。

カクテ以上償還金庫ニ依ツテ一九三五年度ニ爲サレタ公債償還額ハ、租稅納入ニ代用サレタ諸證券約七百萬法ヲ加算スレバ三十六億五千萬法ニ上リ、從ツテ、一九二六年十月一日同金庫設立以來爲シタ其ノ償還總額ハ三百六十四億三千二百萬法トナツタワケデアル。

併シカク巨額ニ就キ國庫ニ勵力シタ結果金庫ノ財源ハ漸ク乏シクナリ一九三六年度現在ニ於テハ其ノ剩餘資金ハ五億法以下ニ減ジテ其ノ機能ニ危惧ノ念ガ懷カルルニ到ツタノデアル。蓋シ法律上金庫ニ與ヘラレタ資源ハ煙草及ビ燐寸賣買收入及ビ租稅收入デアリ、從ツテ經濟恐慌ノ餘波ヲ受ケテ近年其ノ收入ガ激減スルニ到ツタカラデアル。今之ヲ一九三五年度ニ就イテ見ルニ其ノ内譯ハ左ノ如クデアル。

荒木光太郎文書 5

第一回所有權移轉補完稅　一九六（百萬法）

相續稅及ビ死亡ニ依ル

所有權移轉稅　一、八六七（〃）

贈與稅　〇、〇二（〃）

國庫負擔年金公債延滯金　一（〃）

燐寸稅益金　三三（〃）

煙草稅益金　一、六五三（〃）

計　三、七四九（〃）

然シテ石ハ

一九三四年度　三、八一六（百萬法）

一九三三年度　三、九二一（〃）

一九三二年度　三、九八七（〃）

一九三一年度　四、三一八（〃）

デアルカラ其ノ減少ガ相當大ナルヲ知リ得ルデアラウ。猶一九三六年度現在ニ於ケル金庫ノ剩餘資金ハ前述ノ五億法ニ加ヘテ、「フランス」銀行預金十八億法國庫預金約十二億法アルガモトヨリ後者ハ公債市價維持ノ爲メ隨時市場ニ出動スル爲メ必要デアルカラ眞ノ剩餘資金ト云フヲ得ズ之ニ加フルニ「ブルム」内閣ハ其ノ創案ニナル恩給金庫ノ發行スル金庫證券ヲモ該金庫ニ負擔セシムル計畫アリ、カクテ金庫ガ一方ニ於テソノ機能ノ重大化ト他方ニ財源ノ不足ニ依ル機能縮少ノ必要トノ間ノ矛盾ニ惱ム事ハ國家財政ト擬ヲ一ニシテ居ルワケデアル。

伊太利平價切下法要旨

一九三六年十月五月附勅令

一九二七年十二月二十一日附勅令ノ變更

第一條　伊太利「リラ」ノ實質價値ハ名目價値百「リラ」ニ就キ純金四。六七七「グラム」トス。

第二條　前第一條ニ定メラレタル「リラ」ノ價値ハ將來勅令ヲ以テ十「パーセント」ヲ限度トシテ減價スル事ヲ得。

第三條　伊太利銀行券、政府紙幣、補助貨ハ其ノ法定價値ヲ維持ス。

第四條　伊太利銀行ハ前第一條ニ定メラレタル價値ヲ基礎トシテ一九三六年九月三十日現在ノ金準備、又ハ外貨ヲ再評價シ得、右ノ評價益ハ國家ニ歸屬ス。

第五條　勅令ヲ以テ、資本移動並ニ外國トノ爲替取引ニ關スル規定ノ全部又ハ一部ヲ停止シ得

第六條　勅令ヲ以テ細目規定ヲ公布ス。

第七條　本勅令ハ官報掲載ノ日ヨリ施行セラレ、法律トナス爲メ議會ニ提出ス可シ。

米國一九三六年上半國際收支

最近米國商務省ハ一九三六年上半ノ國際收支概算ヲ發表シタ。今前年同期ト比較シテ之ヲ左ニ示ス（單位百萬弗）ー

項目	一九三六年上半 受取勘定	一九三六年上半 支拂勘定	一九三六年上半 受取超過(+) 支拂超過(−)	前年同期 受取勘定	前年同期 支拂勘定	前年同期 受取勘定(+) 支拂勘定(−)
一、商品貿易	一、一五四	一、一六三	(−)九	一、〇二四	九九五	(+)二九
二、役務ー						
運賃	三二	五〇	(−)一八	二七	五五	(−)二八
觀光費	四五	一六〇	(−)一一五	四三	一四六	(−)一〇三
移民送金及寄附金(正味)			(−)五七			(−)六四
利子及配當	二八〇	九〇	(+)一九〇	二一五	七〇	(+)一四五
其他雜	一二二	一〇五	(+)一七	一〇四	九三	(+)一一
役務計（正味）			(+)一七			(−)三九

荒木光太郎文書 5

三、金及銀									
金ノ輸出及輸入	二六	五三七	(一)五一一	一	八〇五	(一)八〇四
金ノ「イヤマーク」解除			(十)三八			(十)二
銀ノ輸出及輸入	二	一一八	(一)一一六	一二	九一	(一)七九
金銀移動（正味）			(一)五八九			(一)八八一
四、資本動定						
民間資本投資			(十)二六四			(十)六〇
證券			(十)二七四			(十)五六〇
直接			(十)三			(一)一一
通貨移動			(一)四五			※
雜			(十)四九六			(十)六〇九
資本移動（正味）			(十)八五			(十)二八二
五、誤差脱漏等						

（註）　※印ハ護差脱漏中ニ計入

（資料）米、Federal Reserve Bulletin, Oct. 1936.

金融事情（十一月十六日ー三十日）

上旬緩和過程極メテ遲々タリシ短資市況モ中旬ニ入リ漸ク平靜ニ復シ、殊ニ十三日簡易保險ノ大阪市債引受金ガ市場ヲ潤シテ後ハ久方振ニ協定率七厘ヲ見ルニ至レリ、下旬ニ入リテ後ハ綿糸布、生糸ヲ主トスル輸出貿易ノ隆盛及滿洲特產出廻ニ因ル爲替資金ノ需要、北陸方面ヲ中心トスル米穀資金ノ地方流出、竝ニ朝鮮ニ於ル產業資金ノ增大等アリ、九、十兩月末ノ極度引締狀態ニ鑑ミ本月末ハ短資ノ繁忙ヲ豫想セラレ、其ノ動向ハ一般ニ警戒注目セラレタル所ナリシモ既往ニ鑑ミ銀行筋ガ其ノ手許資金ノ充實ニ努メタル外更ニ政府當局ニ於テモ次官會議ノ席上各省ノ支拂促進方ヲ勸奬シ、年末金融ニ對シ關心ヲ示ス所アリ市場モ好感ヲ以テ迎ヘ安堵氣配ヲ呈シタルガ二十五日ノ如キ簡易保險運用金竝ニ米券市中償還等ヲ含メ相當巨額ノ資金ガ一時ニ市中ニ放出セラレタル等ニ依リ市中資金ハ豐富ナルヲ得タル爲九、十兩月末ニ比シ極メテ平穩裡ニ越月シ年末金融ニ對スル懸念モ著シク拂拭セラル、ニ至

レリ。

短資市場

「コール、レート」ハ月央來翌日物七厘ノ協定率ヲ續ケ連休明ノ二十四日ハ地方資金ノ流出ニ因リ五毛高ヲ見タルモ前記政府資金ノ放出ニ二十五日ヨリ二十七日ニカケテハ七厘物及七厘五毛物相半スル狀態トナリ月末近トシテハ異狀ノ安値ヲ出現セルガ二十八日ニ至リ出手銀行ガ手許ヲ豐富ニシタル上昨日ノ大阪高ヲ受ケ五毛高ノ八厘中心トナリ三十日ハ信託會社決算關係ヨリ信託筋ノ回收ヲ契機ニ九厘ト引締ノ氣配ヲ呈シタルガ、鮮銀ガ限外發行ヲ行ヒ準備金ヲ解除シ及一流銀行ガ交換後ニ手許資金ヲ解放シタル結果却テ剩リ氣味トナリ爲替銀行ヘノ流入アリシタメ小量乍ラ六厘四分ノ三ノ安値ヲモ示現セリ。

短資市場不安ニ出手皆無ナリシ長期物モ市場安堵氣配ニ二十六日頃ヨリ漸次小量ナガラ出廻ヲ見セ國債擔保三十日物九厘乃至九厘五毛見當ニテ出合進捗シ來レリ。

外國爲替市場

米國側ノ外資流入抑制及加盟銀行準備率再引上說等ノ材料ヲ入レ英米「クロス」ハ續騰ヲ來タセシモ圓爲替ハ外國爲替管理强化ノ決定、日獨防共協定成立、海外ニ於ル本邦債軟調等ヲ眺メ氣迷氣味ヲ示セリ。中旬ハ輸出「ビール」ノ出廻順調ナリシガ下旬ニ入リテハ稍々出澁リ反之棉花、羊毛ヲ中心ニ輸入手當見受ケラレ弱含ノ傾向ナリ。

公債市場

十五日外貨債特別稅率ノ變表ニ外貨債ハ一勢ニ崩落シ中ニハ爲替換算「パー」ヲ割ルモノサヘ見受ケラレルニ及ビ內國債モ一般ニ人氣ヲ害ネ軟調ヲ示シタルモ、鐵道共濟組合ノ買入入札等ニ好感底入狀況トナリ短資市場ノ緩和ト共ニ相場徐々乍ラ恢復ノ傾向ヲ辿ル。

社債市場

所得稅改正稅率細目發表ノ結果社債市場モ四分三厘電力社債ハ九九圓

三、五十錢、四分五厘日窒社債一〇〇圓ト總シテ軟調ヲ免レズ。

株式市場

月ノ中旬ハ內外各方面ニ於ル好惡ノ材料錯綜シ氣迷氣味ヲ免レズ、下旬ニ入リテ三十億圓ニ上ル豫算案ノ閣議決定ニ底意ハ堅調トナリシガ日獨防共協定ノ成立ハ國際關係ノ將來ニ一抹ノ懸念ヲ懷カシメ加之對華關係事業株ノ低落ヲ齎シ、更ニ支那問題等々ノ幅輳ニヨリ兎角鈍重ニ推移シ殊株概シテ軟調裡ニ越月セリ。

荒木光太郎文書 5

資料

一、主要國財政經濟日誌

昭和十一年

二月二日(水)　佛　下院ニ於テ一九三七年度豫算大綱ヲ發表、通常豫算ニ於ケル歳入四四、三九六、〇〇〇、〇〇〇法、歳出四八、一六八、〇〇〇、〇〇〇法、歳入不足三、七七一、〇〇〇、〇〇〇法特別豫算ニ於ケル歳出合計ハ一六、〇五三、〇〇〇、〇〇〇法ニ及ブ

一三(金)　日　大藏省議ニ於テ庶民、恩給金庫設置ニ決定。

米　大統領ハ多額ノ外國資本ガ米國證券ニ投資ラルルコトハ通貨安定ヲ阻止スル恐レアルヲ以ツテ外國人ノ證券取得取締ニ關スル法律制定ノ必要アルヤ否ヤヲ考究中ナル旨發表。

佛　下院陸軍委員會ハ「ダラディエ」國防相ノ提出セル軍備充實案ヲ可決。

一四(土) 日 大藏省議ハ取引稅ノ細目ヲ決定。
獨 政府ハ河川條項ニ關スル「ヴエルサイユ」條約ヲ廢棄スルニ決定シ其ノ旨ヲ關係國政府ヘ通告。

一五(日) 日 大藏省ハ外貨債特別課稅要項ヲ發表。
獨・伊 兩國經濟提携成立。

一六(月) 滿 中央銀行ヨリノ借入金整理ノ爲三〇、〇〇〇、〇〇〇圓ノ四%利附一〇年期限ノ整理公債發行ニ決定。
米 大藏長官ハ一九三四年金準備法ニ基ク平價切下權ヲ更ニ延長スベク議會ニ要求スル旨發表。

一七(火) 英 大藏省ハ明年二月一日ニ償還セラルベキ五½%利附米貨公債及二½%利附大藏省債券ノ償還及國防公債ノ發行ヲ控ヘ流動公債整理ノ目的ヲ以ツテ二¾%整理公債ヲ一般公募ノ方法ニテ發行スル旨公表。

荒木光太郎文書 5

一八(水) 獨。伊政府ハ西班牙反政府軍政權ヲ正式承認。

一九(木) 米。亞爾然丁政府ハ一九七一年期限四%借換ノ目的ヲ以テ亞爾然丁政府ハ一九七一年期限四%利附米貨公債二三、五〇〇、〇〇〇弗ヲ九二%ニテ募集。

獨 外國爲替統制ノ爲外國證券取締令公布、獨逸人ノ所有スル外國證券（日本國債ヲ含ム）ハ十二月四日迄ニ外國爲替銀行ニ預入スベキ旨決定。

二〇(金) 滿 滿洲興業銀行設立ノ旨發表。

伊 爲替管理局ハ經濟封鎖ニ對スル對抗手段ヲ緩和シ來ル十二月一日以降伊太利銀行其他外國爲替取扱機關ハ伊太利在住外國人又ハ外國在住ノ伊國人ノ爲外國通貨ヲ以ツテ預金取引ヲ爲シ或ハ外國有價證券ノ保有ヲ爲ス旨發表。

二一(土) 日 大藏省ハ外國爲替管理委員會ヲ開キ外國爲替管理強化ニ關

スル大藏省令改正ノ件ヲ決定。

二三(月) 日米 大藏省ハ濠洲國興業銀行設立ニ關スル經過及內容發表。大藏長官ハ英米佛三國通貨協定ニ白、和、瑞西ガ正式ニ加入シ米國及右三國間ニ金交換協定ガ成立シ翌二十四日ヨリ實施セラルル旨聲明。

和 政府ハ英、米、佛三國通貨協定ニ參加スル旨聲明。

瑞西 政府ハ英、米、佛三國通貨協定ニ參加スル旨ヲ右三國ニ對シ正式ニ通告

二四(火) 白 英、米、佛三國通貨協定ニ參加スル旨發表。

二五(水) 日。獨 防共協定成立。

二六(木) 瑞西 瑞西中央銀行公定割引歩合引下(二%ヨリ一½%ハ)。

二七(金) 日 郵便貯金ノ利下決定(三厘六毛下ゲ、卽チ二分六厘四毛ニ)。

〃 金融評議會ヲ組織スルコトニ閣議決定。

〃		閣議ニテ昭和十二年度豫算決定、歳出入三〇四一、〇〇〇〇〇〇〇圓、公債八〇六〇〇〇〇〇〇〇圓。
二八(土)	英	緊急時ニ備ヘ食糧ノ分配統制ニ當ル機關トシテ食糧防衛企畫部創設ニ決定。
エクアドル		主都ニ革命勃發

荒木光太郎文書 5

(二) 經濟統計

(イ) 主要國金融市場

(ロ) 中央銀行概況

日本銀行

（單位　千圓）

	一九三六年十月三十一日	前年同期
發行兌換銀行券	一、四五二、九六七	一、三六二、三一四
預金		
政府	三二二、八六一	四一八、二四七
一般	七四、一七九	六三、六五八
計	三九七、〇四〇	四八一、九〇六
現金及地金	六〇一、三八〇	五四一、五一五
準備率	三二。五%	二九。三%
割引手形	六三四、六三四	七四九、〇四七
公債	四五四、一三七	四五一、六四三

荒木光太郎文書 5

英蘭銀行

（單位　千磅）

	一九三六年十月二十八日	前年同期
銀行券流通高	四四二、七四一	三九九、八八九
現金：		
政府	二七、六〇七	二六、二二六
銀行業者	八六、五三三	八二、五二四
其他	四一、三六九	三八、五五二
計	一五五、五一〇	一四七、三〇二
金貨及金地金：		
發券部	二四八、六六〇	一九四、六八三
營業部	九九五	八三七
計	二四九、六五五	一九五、五二〇

荒木光太郎文書 5

金準備率	四一三	三七	
金ノ出入		(廿)	
營業部ー	ー	三六〇	
政府證券	八〇一八三	八五八九〇	
割引及貸付	六六〇一	一一二一〇	
其他	一九五〇三	一二二七〇	

荒木光太郎文書 5

米國聯邦準備銀行

（單位　千弗）

	一九三六年十月二十八日	前年同期
預金		
加盟銀行	六、七三二、〇〇三	五、六五二、九八九
政府	九、九〇三	六、〇二七
外國銀行	六、五四七、九	二、五四〇、二
其他	一、五四一、七〇	二、七〇七、四四
計	七、〇五一、五五五	六、〇〇九、四一四
聯邦準備券流通高	四、〇八六、二四二	三、五一一、三一九
準備		
金券	八、六三五、八三一	七、〇二六、六二三
聯邦準備券	一、二七二、七三	一、九七二、七

其他ノ現金	二六五、八二五	二三八、九五三	
計	八、九一三、九二九	七、二八五、三〇三	
準備率	八〇、〇%	七六、五%	
割引手形	六、一〇七	六、一二八	
一般市場ニテ買入レタル手形	三、〇八七	四、六七六	
米國政府證券保有高	二、四三〇、二二七	二、四三〇、一七二	
其他證券	—	一、八一一	
證券總計	二、四六五、七二〇	二、四七三、八七六	

佛蘭西銀行

（單位　千法）

	一九三六年十月三十日	前年同期
銀行券流通高	八七、一九七、六二八	八三、三〇六、一七一
預金	一三、一一七、九一九	一三、三三二、五七〇
金	六四、三五八、七四二	七一、九八九、七九二
金準備率	六四・〇％	七四・三％
外國資產		
當座預金	五、四六四	七、八三〇
爲替手形	一、四五三、〇九〇	一、〇三六、七一五

荒木光太郎文書 5

(2)中央銀行公定金利

國別	現行利率 改正日附	現行利率 %	前利率 改正日附	前利率 %
日本（日本銀行）	一九三六・四・七	三・二八五	一九三三・七・三	三・六五
英國（英國銀行）	一九三二・六・三〇	二	一九三二・五・一二	二½
米國（聯邦準備銀行）	一九三四・二・一	一½	一九三三・一〇・一九	二
佛國（佛蘭西銀行）	一九三六・一〇・一五	二	一九三六・一〇・八	二½
伊國（伊太利銀行）	一九三六・五・一八	四½	一九三五・九・九	五
獨逸（獨逸國銀行）	一九三二・九・二二	四	一九三二・四・二七	五
和蘭（和蘭銀行）	一九三六・一〇・一九	二½	一九三六・七・六	三
白耳義（白耳義國立銀行）	一九三五・五・一五	二	一九三四・八・二八	二½
瑞典（瑞典銀行）	一九三三・一・一	二½	一九三三・六・一	三
瑞西（瑞西國立銀行）	一九三六・一・二六	一½	一九三六・九・九	二

(ロ)金融市場

(1)日本銀行營業情況

（單位千圓）

負債ノ部	昭和十一年十一月廿日	仝十一月廿一日	十一月廿八日
資本金	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇
積立金及損益金	一三七二〇二	一三七三二二	一三七四三一
發行兌換銀行券	一、二六四四二六	一、三一八八七九	一、四九一一七九
政府預金	四一三五〇四	三九六九〇三	三三四二〇四
內政府當座預金	二八九九五	二六八一八一	二〇七四三三
其他	一二三五〇九	一二八七二二	一二六七七一
一般預金	五〇六七八	五六二七一	七一三九五
小額紙幣準備寄託金	一〇九九〇	一〇九九〇	一〇九九〇
其他	九九二八二	九一九三〇	九〇七九八
計	二〇三六〇八四	二〇七二二九六	二一九五九九九

資産ノ部			
拂込未濟資本金	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇
現金及地金	六〇二、六四五	六〇二、六九四	六〇二、一七八
內金貨及金地金	五四一、七六五	五四二、九八六	五四四、〇七八
其他	六〇、八七九	五九、七〇八	五八、一〇〇
割引手形	五三〇、〇六三	五三二、二二二	五六八、四四一
政府法定貸金	二二、〇〇〇	二二、〇〇〇	二二、〇〇〇
政府一時貸金	一五三、七五三	一五五、七三六	一五七、五一一
貸付金	三二、二二〇	三一、六二九	三一、七九七
外國爲替貸金	一一七、四九〇	一三〇、八二二	一六五、六一二
公債	四四八、一三七	四四八、一三七	五〇一、二七〇
代理店勘定	七一、七〇八	九〇、八三八	八五、六八七
政府勘定特殊現金	九、九五一	一〇、二〇四	九、九四七

小額紙幣準備保管金	一〇、九九〇	一〇、九九〇	一〇、九九〇
其他	二二、一二三	二二、〇二一	二五、五六二
計	二、〇三六、〇八四	二、〇七二、二九六	二、一九五、九九九

(2) 東京市中金利

昭和十一年	翌日物	無條件	三十日物	早受手形	單名手形
十一月十一日	〇・七五一―〇・七五一	〇・八五―〇・八〇―〇・八〇	一・一〇―〇・九〇―〇・九〇	一・一五―一・一〇―一〇五	一五〇―一・一〇―一〇五
十二日	〇・七五―〇・七五―〇・七〇	〇・八〇―〇・八〇―〇・七五	一・一〇―〇・九〇―〇・九〇	一・一五―一・一〇―一〇五	一五〇―一・一〇―一〇五
十三日	〇・七五―〇・七五―〇・七〇	〇・八五―〇・八〇―〇・七五	一・一〇―〇・九〇―〇・九〇	一・一五―一・一〇―一〇五	一五〇―一・一〇―一〇五
十四日	〇・七五―〇・七五―〇・七〇	〇・八五―〇・八〇―〇・七五	一・一〇―〇・九〇―〇・九〇	一・一五―一・一〇―一〇五	一五〇―一・一〇―一〇五
十五日	休日				
十六日	〇・七〇―〇・七〇―〇・七〇	〇・八〇―〇・七五―〇・七五	一・一〇―〇・九〇―〇・九〇	一・一五―一・一〇―一〇五	一五〇―一〇〇―一〇五
十七日	〇・七〇―〇・七〇―〇・七〇	〇・八〇―〇・七五―〇・七五	一・一〇―〇・九〇―〇・九〇	一・一五―一・一〇―一〇五	一五〇―一・一〇―一〇五
十八日	〇・七〇―〇・七〇―〇・七〇	〇・八〇―〇・七五―〇・七五	一・一〇―〇・九〇―〇・九〇	一・一五―一・一〇―一〇五	一五〇―一・一〇―一〇五
十九日	〇・七〇―〇・七〇―〇・七〇	〇・八〇―〇・七五―〇・七五	一・一〇―〇・九〇―〇・九〇	一・一五―一・一〇―一〇五	一五〇―一・一〇―一〇五
二十日	〇・七〇―〇・七〇―〇・七〇	〇・八〇―〇・七五―〇・七五	一・一〇―〇・九〇―〇・九〇	一・一五―一・一〇―一〇五	一五〇―一・一〇―一〇五
二十一日	〇・七〇―〇・七〇―〇・七〇	〇・八〇―〇・七五―〇・七五	一・一〇―〇・九〇―〇・九〇	一・一五―一・一〇―一〇五	一五〇―一・一〇―一〇五
二十二日	休日				

荒木光太郎文書 5

二十三日	祭日	〇・八五	一・〇〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
二十四日	〇・七五	一・七五	一・七〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
二十五日	〇・七五	一・七五	一・七〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
二十六日	〇・七五	一・七五	一・六3/4	一・一〇	一・一〇	一・一〇
二十七日	〇・七五	一・七五	一・七〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
二十八日	〇・八五	一・八〇	一・八〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
二十九日	休日					
三十日	〇・九〇	一・九〇	一・六3/4	一・一〇	一・一〇	一・一〇
	〇・八五	一・八〇	一・八〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
	〇・八五	一・八〇	一・八〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
	〇・九〇	一・八五	一・八〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
	一・〇〇	一・九五	一・九〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
	一・〇五	一・九五	一・九〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
	一・一〇	一・九3/4

荒木光太郎文書 5

(3) 東京手形交換高

昭和十一年	交換高	交換尻	昭和十一年	交換高	交換尻
十一月十一日	七一、三五〇 千圓	九、八一七 千圓	二十日	八五、四七〇 千圓	一三、二〇八 千圓
十二日	八三、七三八	九、八八八	二十一日	六五、一七六	一〇、〇六九
十三日	七三、一五二	一〇、二二〇	二十四日	六七、六七二	一六、九四八
十四日	六九、五七八	一一、三七九	二十五日	九七、五六四	一五、八五二
十六日	八六、〇六一	一一、〇四九	二十六日	一六一、七一四	一七、五三一
十七日	七六、八三四	九、八五八	二十七日	八二、四〇五	一五、〇五二
十八日	六一、七六二	九、五一四	二十八日	八六、三五三	一八、〇七九
十九日	九一、九九八	一五、五二五	三十日	一一七、〇三五	二四、八九五

(6) 外國爲替市場

(1) 正金銀行建値

昭和十一年 月 日	倫敦向 一圓ニ付 志片	シドニー向 一圓ニ付 志片	巴里向 一圓ニ付 法	伯林向 一圓ニ付	紐育向 一〇〇圓ニ付 弗	カルカッタ向 一〇〇圓ニ付 留	スラバヤ向 一〇〇圓ニ付 盾	上海向 一〇〇弗ニ付 圓
一〇—一二	一—二	一—五 7/8	六・一三	・七〇 7/8	二八 7/8	七七 7/8	五二 3/8	一〇四 3/4
一三	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
一四	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一〇五
一六	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一〇四 3/4
一七	〃	〃	〃	・七〇 5/8	〃	〃	〃	〃
一八	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
一九	〃	〃	〃	〃	〃	〃	五二 7/8	〃
二〇	〃	〃	〃	・七〇 3/4	〃	〃	〃	〃
二一	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
二四	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

二五	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一〇四〇
二六	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一〇四三
二七	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	五三八	〃
二八	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
三〇	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

荒木光太郎文書 5

(2) 英米爲替相場

昭和十一年 月 日	紐育宛倫敦相場（一磅ニ付）	倫敦宛紐育相場（一磅ニ付）
一一一一〇	四〇八七 5/8	四〇八八 5/16
一一	四〇八八	
一一二	四〇八七 3/4	四〇八八
一一三	四〇八八 7/8	四〇八八 5/16
一一四	四〇八八 5/8	四〇八九
一一六	四〇八八 9/8	四〇八九 7/16
一一七	四〇八八 5/8	四〇八八 7/16
一一八	四〇八八 3/4	四〇八八 5/16
一一九	四〇八九 7/8	四〇八九

昭和十一年 月 日	紐育宛倫敦相場（一磅ニ付）	倫敦宛紐育相場（一磅ニ付）
一一一二〇	四〇八九	四〇八九 7/16
一一二三	四〇八九 5/8	四〇九〇 7/16
一一二四	四〇八九 9/16	四〇八九 9/16
一一二五	四〇八九 5/8	四〇八九 5/16
一一二六	四〇八九 3/4	四〇八九 7/16
一一二七	四〇八九 5/8	四〇八九 3/4
一一二八	四〇八九 3/4	四〇八九 5/16
一一三〇	四〇九〇 1/16	四〇九〇 3/4

荒木光太郎文書 5

(3) 金銀相場（倫敦及紐育建）

昭和十一年	倫敦 金塊（純金一オンス二付）	倫敦 銀塊（〇、九二五オンス二付）	紐育 金塊（純金一オンス二付）	紐育 銀塊（純銀一オンス二付）
	磅 志 片	片	弗	仙
一一	七〇 二〇 七½	二 五/六	三五	四七½
一一	七〇 二〇 五½	二 七/六	〃	〃
一二	七〇 二〇 六	二 〇/六	〃	四五½
一三	七〇 二〇 七½	二 一	〃	〃
一四	七〇 二〇 四½	二 一/六	〃	〃
一六	七〇 二〇 三½	二 一/六	三五	四五½
一七	七〇 二〇 四	二 一/四	〃	〃
一八	七〇 二〇 三	二 一/八	〃	〃
一九	七〇 二〇 二½	二 一	〃	四五/四

二〇	七〇二〇二	二一	三五	四五⅝	〃
二三	〃	二一⅞	〃	四五⅜	〃
二四	七一一〇½	二〇⅝	〃	四五⅞	〃
二五	七〇二〇一	二一⅞	〃	〃	〃
二六	七〇一〇一½	二一	〃	〃	〃
二七	〃	〃	〃	〃	〃
二八	七〇二〇〇	二一⅞	〃	〃	〃
三〇	七〇一〇一一	二一	〃	〃	〃

(二)證券市場

東株建値

昭和十一年	國債 甲五分	國債 一號四分	株式（清算） 三分半い新東（短）	株式（清算） 東株	株式（清算） 鐘紡	株式（清算） 日產	株式當日出來高 長期	株式當日出來高 短期
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	千圓	千圓
十一日	一〇〇・三五	一〇〇・八五	九八・〇五	一四〇・六〇	二二〇・四〇	七九・八〇	七五〇〇〇	九五〇〇〇
十二日	一〇〇・三五	一〇〇・八五	九八・一〇	一三九・九〇	二二〇・五〇	七九・八〇	一一五〇〇〇	一一五〇〇〇
十三日	十	一〇〇・八五	九八・一〇	一四〇・一〇	二二一・五〇	七九・三〇	一〇〇〇〇〇	一一五〇〇〇
十四日	一〇〇・三五	一	九八・一五	一三九・一〇	二二一・三〇	七九・四〇	八〇〇〇〇	一八〇〇〇〇
十六日	一	一〇〇・八五	九八・一〇	一三八・四〇	二二一・〇〇	七九・一〇	二二〇〇〇〇	二八〇〇〇〇
十七日	一	一〇〇・八五	九八・一〇	一四〇・五〇	二二一・二〇	七九・八〇	二〇〇〇〇〇	二八〇〇〇〇
十八日	一	一〇〇・八五	九八・一〇	一四一・三〇	二二〇・〇〇	七九・四〇	二五〇〇〇〇	一六〇〇〇〇
十九日	一	一〇〇・八〇	九八・九〇	一四二・〇〇	二二〇・〇〇	七九・一〇	二六〇〇〇〇	一八〇〇〇〇
二十日	一〇〇・一五	一〇〇・八〇	九八・〇〇	一四一・九〇	二二一・八〇	七九・三〇	二二〇〇〇〇	二三〇〇〇〇
廿一日	一〇〇・一五	一〇〇・八五	九八・一〇	一四二・六〇	二二〇・九〇	七九・四〇	二四〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇
廿四日	一〇〇・一五	一〇〇・八〇	九八・一〇	一四二・三〇	二二〇・七〇	七九・五〇	九〇〇〇〇	一七五〇〇〇
廿五日	一	一〇〇・八〇	九八・〇五	一四三・三〇	受渡ニ付休會			

廿六日	一〇〇・一五	一〇〇・〇〇	九八・一五	一四〇・〇〇	一三二・三〇	二二一・四〇	七九・五〇	二五〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇
廿七日	一〇〇・一五	一〇〇・〇〇	九八・一四	一四〇・五〇	一三一・九〇	—	七九・三〇	二二〇〇〇〇	二二〇〇〇〇
廿八日	一〇〇・一五	一〇〇・八〇	九八・一〇	一四〇・七〇	一三二・四〇	二二一・三〇	七九・五〇	四五〇〇〇〇	三一〇〇〇〇
三十日	一〇〇・一五	一〇〇・八五	九八・一五	一三八・〇〇	受渡ニ付休會				二二〇〇〇〇

(ホ)商品市場

昭和十一年	生糸（實物）	繭糸（清算）	人絹（清算）	期米	砂糖（十一月限）
十一日	八六〇・〇〇圓	二一一・〇〇圓	六三・五〇圓	二九・七七圓	一二・三七圓
十二日	八六〇・〇〇	二一一・〇〇	六三・〇〇	二九・五四	一二・五七
十三日	八七五・〇〇	二一一・六〇	六三・四〇	二九・六九	一二・六九
十四日	八八〇・〇〇	二一四・九〇	六三・四〇	二九・八三	一二・五八
十六日	八八〇・〇〇	二一二・八〇	六三・五〇	二九・五六	一二・五〇
十七日	八七〇・〇〇	二一五・六〇	六四・三〇	二九・六四	一二・五一
十八日	八七〇・〇〇	二一四・一〇	六三・八〇	二九・六一	一二・四〇
十九日	九〇〇・〇〇	二一六・五〇	六四・四〇	二九・七八	一二・三三
二十日	九〇五・〇〇	二一七・一〇	六四・一〇	二九・七五	一二・三〇
二十一日	九〇五・〇〇	二二〇・〇〇	六四・七〇	二九・九一	一二・三〇
二十四日	八九〇・〇〇	二一九・〇〇	六四・七〇	二九・七九	一二・二五

二十五日	九二五・〇〇	二二二・四〇	六五・四〇	二九・八二	一二・三一
二十六日	九二〇・〇〇	二一七・五〇	六四・三〇	二九・七四	一二・二一
二十七日	九〇〇・〇〇	二一八・〇〇	六四・六〇	二九・七九	一二・二九
二十八日	九〇五・〇〇	二一八・九〇	六四・九〇	二九・七一	一〇・八〇
三十日	九〇五・〇〇	受渡ニ付休會		二九・六三	受渡ニ付休會

(三)諸說

一、税制整理ノ金融界ニ及ボス影響

(イ)「税整理ノ金融界ヘノ影響」―エコノミスト誌十月二十一日號

税整理ハ多少ノ犧牲ヲ金融資本家ニ與ヘルガ、ソレハ結局公債政策ノ圓滑ヲ期スルモノデアル點ニ於テ、ソノ滿足ヲ買ツテヰル。例ヘバ公債利子其他ノ源泉課税ニソノ現レヲ見ル。金融界ヘノ具体的ノ影響ハ略々次ノ如ク思ハレル

(イ)銀行預金ヘノ影響、銀行預金利子ノ課税ハ個人ニヨリ異ルノデ見透シ困難デアル。唯郵便貯金利率ガ現在ノ儘デアルナラ、銀行預金ノソノ方面ヘノ移動ハ相當アルデアラウ

(ロ)銀行收益ヘノ影響、六大銀行一行宛略々半期四十万圓(ハ純益ノ約八分)ノ負擔增デアルガ、之ガ對策トシテハ種々考ヘラレルガ、經費節約、積立金ノ減額及減配等ガ主ナモノデアラウ。

(ハ)起債市場ヘノ影響、國債ト公社債ノ利廻リノ差ハ著シク狹マル、（例ヘバヘ號三分半公債ト四分一厘パー社債トハ一厘四毛ノ開キ）カラ公社債發行ノ條件逆轉運動ガ起ルデアラウ。

(ニ)低金利政策ヘノ影響、增稅ハ金利低下ノ進行ガ停頓セシメル、サナキダニ金利低下ノ進行ガ停頓氣味ガアツタノニ、稅整案ハ之ヲ促進シ部分的ニハ金利ノ反騰ヲモ示スデアラウ。コノコトガ公債消化ニ惡作用ヲ及ボスコトハ勿論デアツテ、コヽニ稅整案ト公債消化ノ矛盾ガ存スル。

(2)「新稅制ノ金融市場ヘノ影響」ダイヤモンド誌十一月廿一日號

稅整案ニヨル負擔增ヲ減配預金利下等ニ依ラズシテ、新ニ有利ナル投資ニヨツテ補塡スルコトハ極メテ困難デアル。例ヘバ普通銀行半期約五百四十五万圓ノ增稅ハ總收入四億八千四百万圓ニ對シ約百分ノ一ニ當ル、若シ總收入中ノ二割ヲ以テ之ヲ補塡センガ爲メニハ、ソノ部分ニ於テハ百分ノ五、五ノ增收ヲ計ラ

ネバナラヌ。即四分一厘利附社債（税引利廻三分八厘）ナラバ約二厘、四分ノ貸出金ナラバ二厘二毛ノ逆轉トナラネバナラヌ。然シテ投資中貨換ヘラレルモノトシテハ発行者ノ無クナル三分半國債ガ選バレルデアラウ。他ノ種ノ銀行ニシナキ同様ノ操作ヲナサネバナラヌガ、ソレハ極メテ困難デアル。從ツテ結局ハ金利逆轉カ、預金利下ニヨラネバナラヌガ、金利ノ逆轉ハ國債ノ不消化ヲ來スカラ、預金利下ノ道ヲトルベキデアル。

國債ノ利廻低下ハ銀行投資ガ三分半公債ヨリ四分三厘社債ニ向フ傾向ヲ助長セシメ、或ハ更ニ進ンデ株式、貸出金ニ向ハシメル處ガアル。

地方債社債ノ個人市場ハ潰滅スル、蓋シ個人投資家ハ機ネ課税所得三―五万圓程度ノモノガ多イカラデアル。此等資金ハ大部分ハ國債ニ、一部ハ株式ニ、更ニ一部ハ信託預金ニ流レ、反面地方債社債ハ金融機關ノ手ニ納マル

今主トシテ個人方面ニ消化サレテキル二三流社債ノ起債ハ不可能トナル。資金ハ貸出又ハ單名手形ニヨリ賄レルコトニナルガソレハ資金供給難ノ爲メ金利ヲ反騰セシメル處ヲ多分ニ藏スル增稅ニヨル國債利廻低下ハソレダケデ國債消化ヲ妨ゲル。

右ノ如キ諸事情カラ地方銀行ノ合同ノ必然性ガ一層强マルデアラウ。

二、公債市價下落ノ意味

(1)「準戰時体制ノ内在的矛盾」エコノミスト誌十一月十一日號

日銀當局ハ三分半赤字公債發行價格割レヲ短資ノ引締リニ基因スルモノデアツテ國債ニ對スル信用ノ動搖カラ來タモノデナイト辯明シテ居ル。

又增稅案ニヨレバ國債ハ優遇シテアルノデアルカラ、公債市價下落ハ短資引締ニ起因スルモノト解スルヨリ外ナシト見ル說モ行ハレテキル。然シソレハ極メテ皮相ノ見解デアル。何トナレ

バ、何モ短資引締リハ今日ニ始マツタコトデハナイ。唯從來ハ金利ノ先行低下ノ思惑ガ強カツタ爲ニ手許資金デ公債ヲ買ヒ、ソノ結果短資ガ引締ツタノデアルカラソレハ決シテ公債市價ノ低落ヲ惹起セシメナカツタ。然ルニ今ヤ金利先行低行ニ對スル一般ノ確信ガ薄ラギ、思惑熱ハ冷メテキルカラ、金利思惑ノ妙味薄ノ國債ヲ賣ツテ樓基化シタ手元ヲ緩和シヨウトスル向ノ現ハレルノモ何等不思議デナイ。

コヽニコソ今回ノ公債市價低落ノ有力ナ一因ガ潜ンデキル。

更ニ又假令稅整案ハ國債ヲ優遇シテキテモ、我々ハ單ニソコノミヲ見テハナラナイノデアツテ增稅ガ一般金利水準ニ對シテ及ボスベキ影響ヲ考ヘナケレバナラヌ。即チ稅整案ニヨレバ稅引利廻ハ二分臺トナリ我國ノ生產關係カラ見テ之以上ノ金利低下ハ困難ト見ラル。ソコデ金利先行低行ノ傾向ハ一應此處デ停止スルコトニナリ、從ツテ公債ノ思惑買モ行ハレナイデアラウ。

(2)「短資引締ノ實相及前途」東洋經濟新報十一月二十八日號

短資引締ノ原因ハ收益關係カラスル銀行ノ手許切詰政策ニ存スルカ、ソノ政策ヲ日銀ガ促進シタコトモ見逃シテハナラヌ、即チ公債ヲ日銀カラ市中銀行ニ賣過ギタコト、換言スレバ日銀ノ通貨收縮政策ガ最近ノ金融引締ノ根本的ナ原因デアル。

最近產業資金膨脹ヲ目シテ金融引締ノ一因トナス說アルモ、信用ノ擴張ニ基ク產業資金增加ハソレダケ預金ヲ增大スルカラ、一時的ニハ兎モ角、長イ目カラ見レバ金融引締ノ原因ト見ルワケニハ行カヌ、勿論產業界ノ發展ハ現實ノ通貨ノ需要增加ヲ伴フカラソノ限度ニ於テ金融ヲ壓迫スルガソノ程度ノコトハ金買上デカバーサレテキル。

其ノ他附隨的ナ原因トシテハ增稅ガ起債市債不圓滑、銀行貸出增加トナリ一時的ニ銀行資金ヲ梗塞セシメ、郵便貯金ヘノ資金ノ流入ヲ促シタコト、政府資金撒布ガ減少シタコト、貿易入超

ノ増大ガ市中銀行ノ資金ヲ正金ニ移動サセタコト等々數ヘラレルガ前述ノ如ク短資引締ノ根本的原因ハ日銀ノ公債賣過ギニアルガ、國債發行價格割レガ短資引締ニ基ク一時的ノ現象デ國債ニ對スル不信用ニ基クモノデナイトイフ日銀ノ意見ニハ贊成デアルガ同時ニ日銀ガ政府ノ低金利政策ト歩調ヲ合セテ通貨ノ十分ノ供給ヲナスコトガ最モ必要デアル。

三、民間資金需要增加傾向

(イ)「産業資金ノ需要急增トソノ背景」ダイヤモンド誌十一月十一日號

最近、我産業界ニ起業熱ノ再燃ヲ見ルニ到リ、産業資金ノ需要激增シ、爲メニ金融市場ニ於イテモ預金ノ增勢ハ阻マレ貸出ハ顯著ナル膨脹ヲ示シテヤヽ金詰リノ傾向ガ窺ハレル。コレハ一般金利水準ノ低下ト國防充實ニヨル軍需關係工業ノ好調ヲ支柱トセル産業界ノ恢復ニヨッテ各種産業部門ニ於ケル設備擴張ガ顯著トナリソノ結果從來銀行預金トナッテ待期ノ姿勢ヲトッタ

遊休資本ガ動員サレタノミナラズ更ニ積極的ナ資金需要ノ擡頭トナツタ爲ダ。尙增稅ニ對スル準備工作トシテ當業者ノ利調調節ヲ目的トスル投資ガ資本膨脹ノ一因ヲナシテヰル。而シテカヽル產業資金ノ需要增ハ今暫ク續クモノト思ハレル。景氣ノ大勢ハ尙上向キデアリソレニ原料國策ノ遂行國防ノ充實滿洲開發工業ノ進捗等ニ資金ヲ益々必要トスルカラデアル。